

令和7年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：21004
学校名：中央小学校

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果			分析
体力・運動能力 ＜男子＞	○すべての種目にわたって、全国平均、札幌市平均より下回っている。	○1週間の総運動時間が、60分から420分の児童の割合は全国平均を上回っているが、420分以上の児童はかなり下回っており、0分の児童も多い。	・男子は、「運動やスポーツをすることは好き」「体育の授業は楽しい」と回答する児童が多いが、目標を立てて運動する児童が少なく、体力・運動能力の向上にはつなげていない。
体力・運動能力 ＜女子＞	○長座体前屈と反復横跳びは全国平均をやや上回っているが、他の種目は、全国平均、札幌市平均を下回っている。	○1週間の総運動時間が、60分から420分の児童の割合は全国平均を上回っているが、420分以上の児童はかなり下回っており、0分の児童も多い。	・男女ともに、少年団やスポーツクラブに所属し日常的に運動に親しんでいる児童と学校以外ほとんど運動をしていない児童の差が大きくなってきている。（二極化）
運動・スポーツへの意識 運動習慣	○「運動やスポーツをすることは好き」「体育の授業は楽しい」と回答する子の割合男子は高いが、女子は低い。	○男女ともに、体力・運動能力向上の目標を立てていないと回答する子が多く、授業の振り返りで「できた、わかった」とすると回答する子が少ない。	・体育の学習では、運動の目標を立てて運動に取り組んだり、課題を解決したりすることにより、「できた、わかった」を実感できるように改善していくことが必要である。
三つの取組			
①体育・保健体育等の授業の充実			②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組
具体的な取組	・中央小オリジナルカリキュラムの作成。（各学年の発達段階に応じた学習内容と6年間の内容を見通したカリキュラム） ・各単元の学習課題と個の課題を明確にした授業づくりと課題解決のための手立てをスキルとして身に付けていく授業。 ・運動が苦手な子に対する支援の充実。 ・準備運動とスキルアップタイム、授業の振り返りの統一。 ・授業の効率化と安全面の強化。（マット、跳び箱週間による運動環境の整備） ・縄跳び活動の充実。		
	・放課後のグラウンド開放。（運動機会の創出・仲間とのつながり） ・長期休業期間のグラウンド開放。 ・ICTを活用した長期休業期間の活動例の提示。 ・体育の授業で、用具・器具の使い方を身に付けるとともに、ゲームのルール工夫の仕方を身に付ける。 ・外部施設の積極的な活用。（北ガスアリーナ・豊平側河川敷） ↓ ・学校周辺施設利用の推奨。		
			③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組
			・食に関する指導の手引きを活用し、全体計画に基づき指導の充実を図る。 ・児童の実態に基づいた食の指導。 ・学校給食を活用した地産地消や家庭と連携した食育の指導。 ・フードリサイクル等による食と環境を結び付けた学習の充実。 ・発達段階に応じたいのちの学習。 ・ヘルスケア事業の活用。（中央保健センター） ・児童の実態に基づいた健康な生活に関わる指導。 ・キャリアパスポートを活用し、自己肯定感（心理的安定）を高める指導。
家庭・地域との連携・協働	・食育の指導、食に関する情報等をお便りやホームページで提供。 ・健康カード等を活用し、児童の健康状態について学校と家庭の情報共有。 ・外部講師の活用（中央保健センター等）。 ・地域スポーツクラブのインストラクターに出前授業を依頼。 ・地域スポーツクラブ、少年団に授業補助を依頼。		

